

地域・在宅看護学概論 友部地区

7G：菊地(都)、佐川、澁原、新堀、根本

旧友部地区基本情報

2026年 男：17485人

2016年 男：17725人

計

35285人

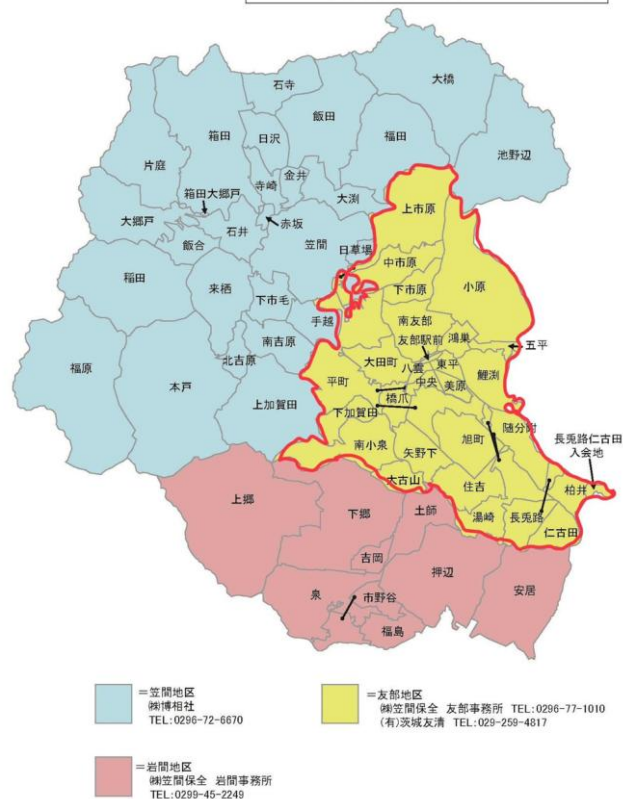
35923人

世帯数

16454

14352

人口は減少し、世帯数は増えている。
(核世帯が増えている??)



旧友部地区の主な特徴

○高速道路のアクセスにも恵まれ、充実した利便性を誇る一方で、豊かな自然や農業、古墳などの歴史資産にも恵まれている。

・ **交通とアクセスの中心地**：JR常磐線と水戸線が分岐する友部駅がある。

北関東自動車道の友部ICや笠間西ICが近い。

・ **行政・生活の拠点**：2006年の市町村合併により、笠間市の本庁舎が置かれる。

医療・福祉施設が立地しており、日常生活の利便性が高い地域。

・ **豊かな自然と歴史資産**：市内には、水辺の美しい風景や桜の名所として知られる北山公園など、自然を満喫できるスポットが豊富。

旧友部地区主な取り組み



●中心地区まちづくりプロジェクト

JR友部駅から市役所周辺までのエリアに都市機能を集約し、快活で活力あるまちづくりを推進している。

●商業振興・創業支援

友部駅前地区における地域経済の活性化や賑わい創出のため、指定区域で新たに創業する方を対象に工事費や設備投資などの支援事業が実施されている。

●環境保全とコミュニティ形成

「NPO法人友部 commons」などが中心となり、里山再生や生物多様性の回復、環境に配慮した有機農業の普及を通じた支え合いのまちづくりが進められている。

一覽



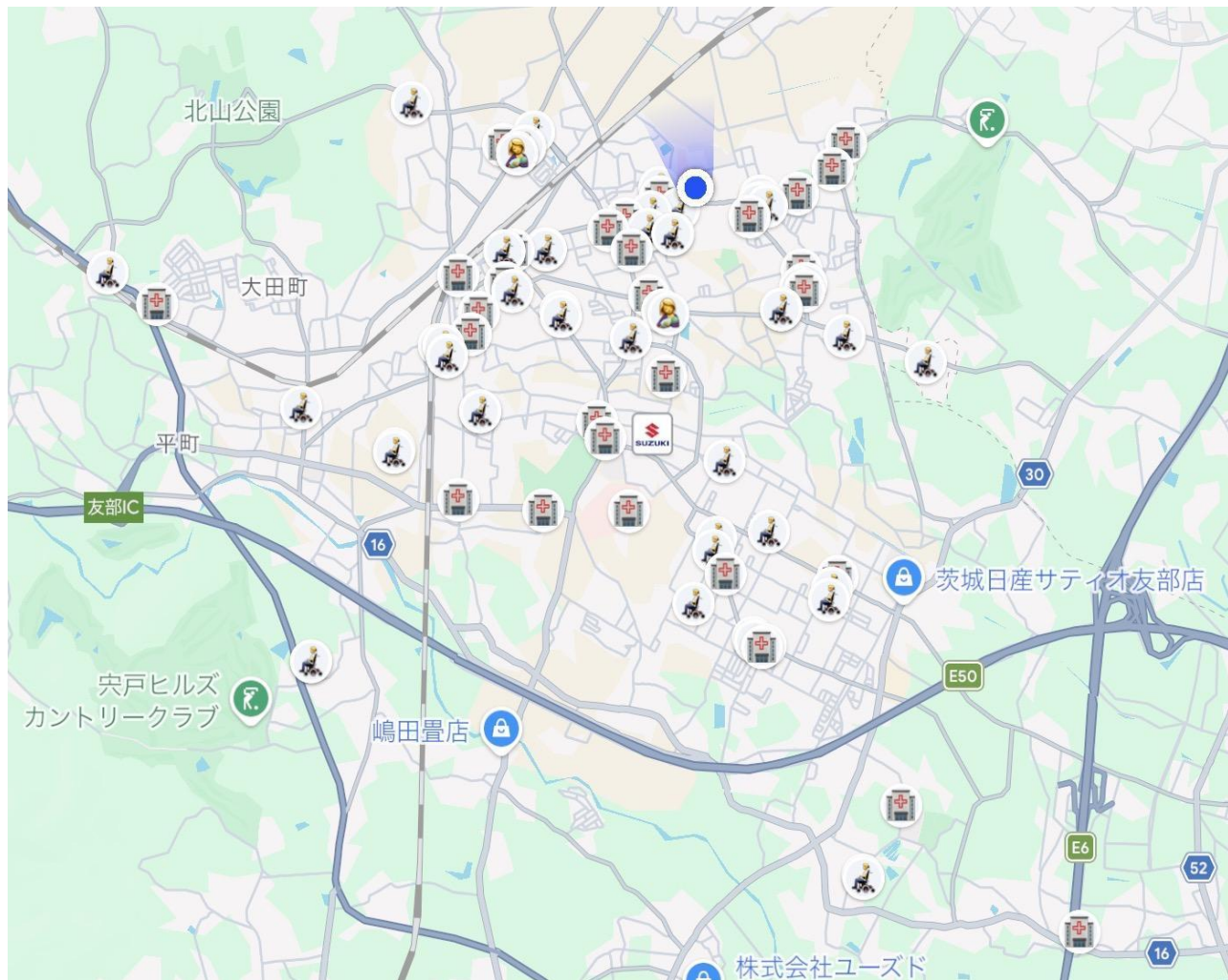
: 医療施設



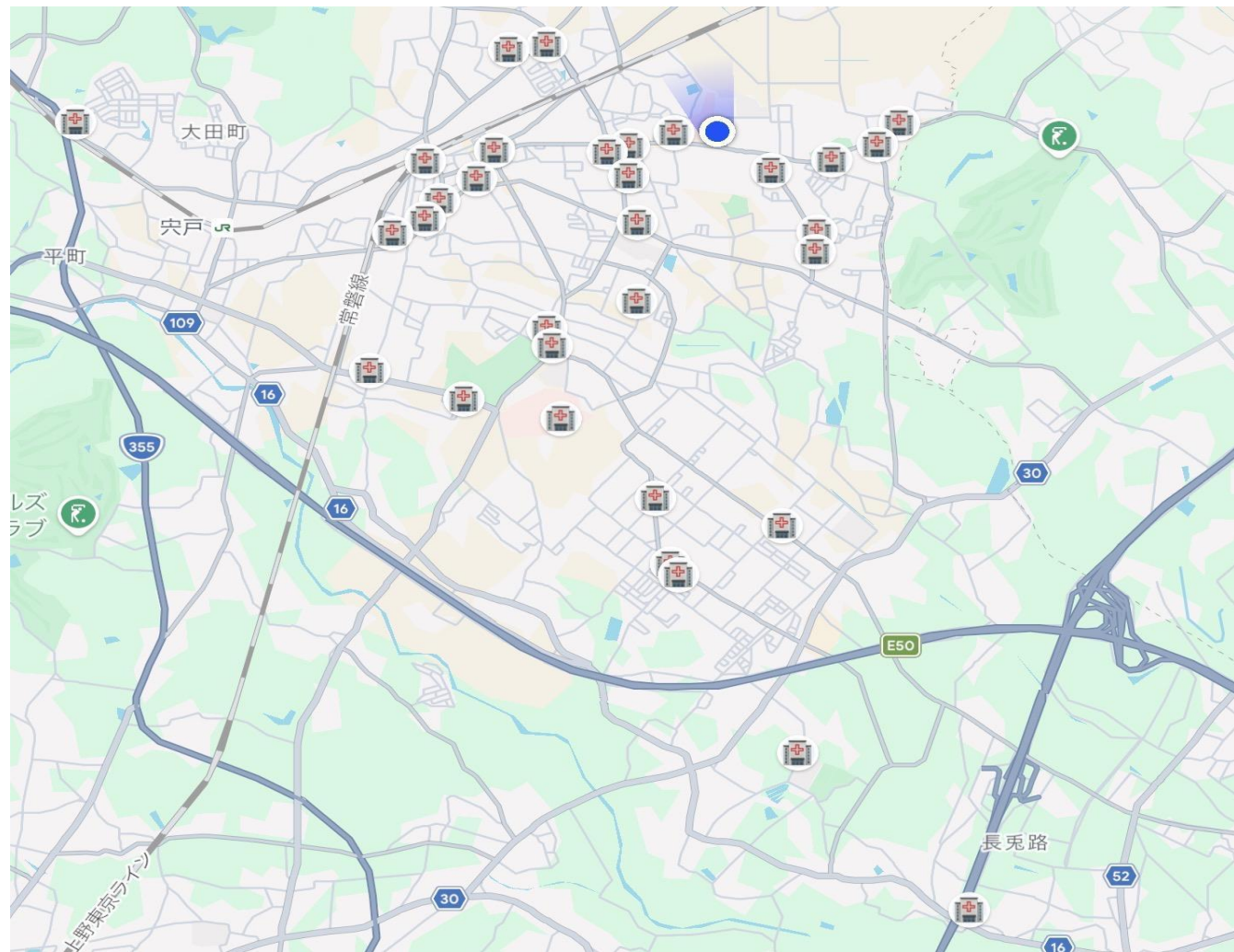
: 介護施設



: 保険・福祉施設



医療施設



地域の医療資源

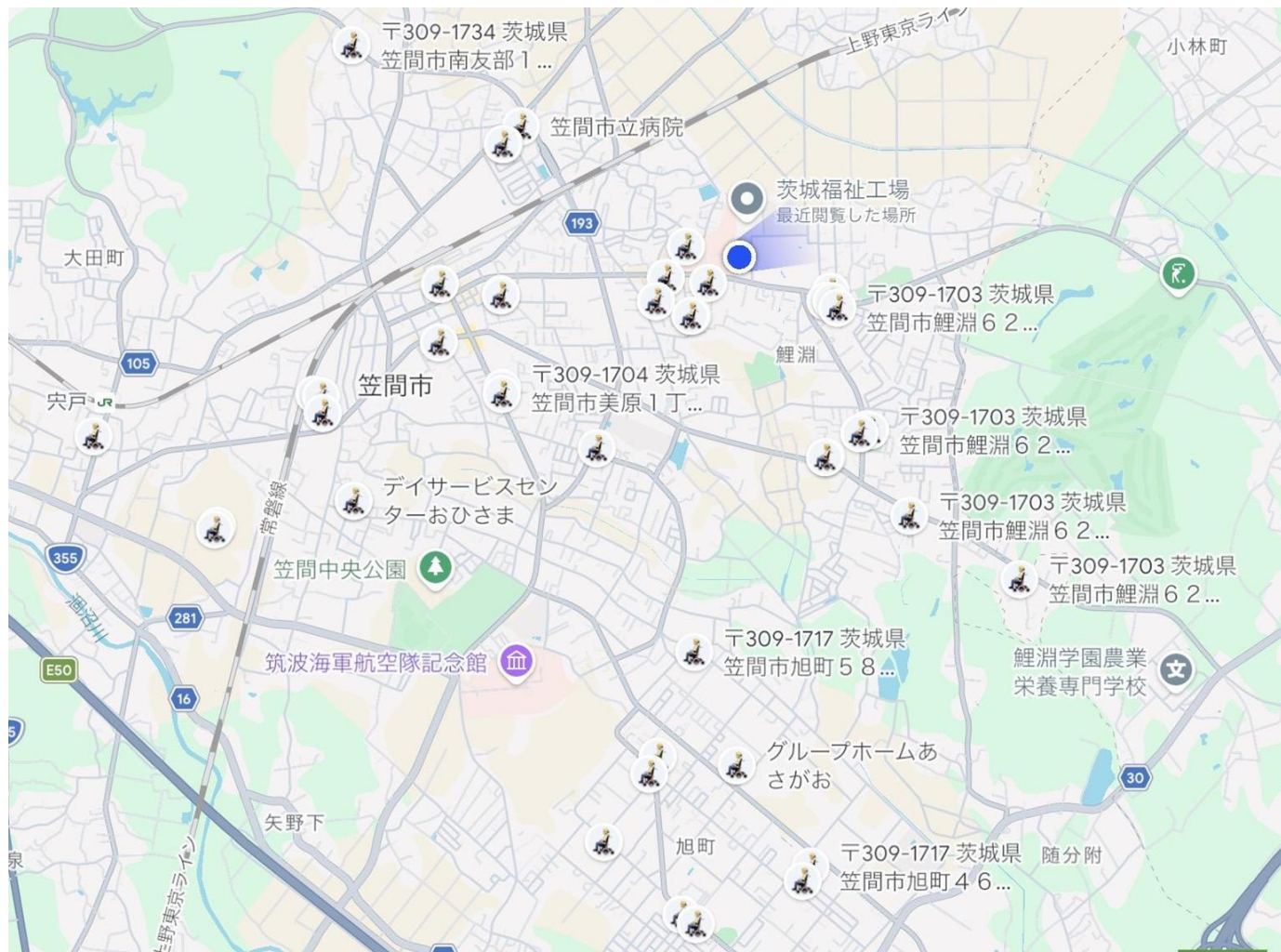
公立・高度専門医療機関の集中:県立の基幹病院が2つ設置されている。

二次救急・がん医療を担当する総合病院、精神中核施設、地域密着型の市立病院、リハビリや二次救急を担う民間病院の役割分担が明確。

医療機関	設置主体	機能・役割
茨城県立中央病院	県立	高度急性期・二次救急・がん医療
茨城県立こころの医療センター	県立	精神科専門医療・精神科救急
笠間市立病院	市立	一次～二次医療・在宅医療・総合診療
立川記念病院	医療法人	二次救急・リハビリ・各種専門外来



 介護施設



介護・生活支援資源

①介護サービスの種類が充実している。

訪問看護、デイサービス、訪問リハビリ、通所リハビリ、居宅介護支援、特別養護老人ホームなど、多様なサービスが整備されており、高齢者の状況に応じた支援を受けられる。

②在宅生活を支えるサービスが多い。

訪問看護や訪問リハビリ、看護小規模多機能型居宅介護など、自宅で生活の続けながら必要介護を受けられるサービスが充実していることから、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援している。

③リハビリに力を入れた施設が多い。

リハビリ専門デイサービスや訪問リハビリ、介護老人保健施設などがあり、高齢者の身体機能の維持・向上や自立支援を重視している地域である。



在宅介護から施設介護まで幅広いサービスが整備されており、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができる体制が整えられている。



保健・福祉施設



保健・福祉施設資源

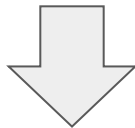
保健：健康相談・健康診断・予防接種など疾病予防や健康づくりを支援されている。

子育て支援：育児相談や親子の交流の場が整備されている。

障害福祉：相談支援や就労支援などがあり、自立した生活を支援している。

高齢者福祉：高齢者やその家族への相談支援体制が整っている。

地域福祉：社会福祉協議会を中心に、ボランティア活動などで住民同士が支え合う仕組みができている。



保健・福祉資源が充実しており、子どもから高齢者まで幅広い世代を支える体制が整っている。

まとめ

地域の人の健康を支える街

強み

医療施設、介護施設が充実しているため、必要なサービスを受けやすい。

全世代が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる

QOLを維持、向上させられる。

課題

公共交通機関(コミュニティバス、乗合タクシーなど)の発達

高齢化が進むと共に、核世帯が増加しているため、一人暮らし高齢者や認知症高齢者への支援が今後さらに必要。

子育て支援の強化

引用

- ・ 笠間市HP
- ・ 県立中央病院HP
- ・ こころの医療センターHP
- ・ 笠間市立病院HP
- ・ 立川記念病院HP
- ・ 笠間市教育委員会
- ・ Google Maps